

調整する 全体指示が聞けるようになる段階とは？

「はい、みんなこっちを見て下さい。これからお手本を見せますよー」

このセリフは普段の一斉指導の授業でよく使いますが「全体指示」を聞いて行動を調整できる段階は、実は発達段階としては高く、前回までの「構える」ができることが前提として求められます。今回はその段階＝「調整する」についてです。



図1



図2

「受け止めて」「働きかける」という「構える」(図1)が上手にできるようになってきた後は「受け止めて」「働きかける」をテンポ良く連続させながら外界との関係を築いていく「調整する」(図2)の段階に進みます。

その際、「受け止めること」の多くは視覚情報、聴覚情報を使って行われるので、原始的な感覚入力(前庭感覚・固有感覚・触覚・味覚・臭覚)の利用よりも、より高度な感覚入力(視覚・聴覚・複数感覚の協応)の利用が多くなります(逆から考えると視覚や聴覚が上手に使えていない子は、「構える」の発達段階に戻ると適正な課題が見つかりやすいということです)。

さて、「調整する」ことができるようになってくると右の図3のように主に4つのこと(①目と身体を協調させること②耳と身体を協調させること③試行錯誤しながら学習を進めること④ことばを使って遊ぶこと)が発達上、通過している最中の課題(でき始める課題)となります。以下に一つ一つ具体例を挙げながら説明を加えます。

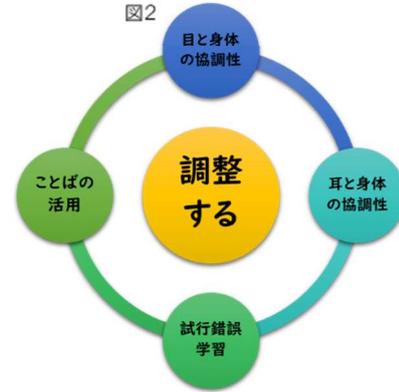


図3_「調整する」の通過課題

①目と身体を協調させること

図4の積み木のように、目で見ながらその揺れに応じて手の動きを調整する、つまり自分の働きかけによって変化していく外界の状況を目で確認し続けながら、働きかけを調整し続けていくことができ始めます。



図4_「見て」調整する

②耳と身体を協調させること

図5の「だるまさんがころんだ」や「すいか割り」など、耳から入る情報を基にしながら自分の行動を調整することができ始めます。これが上手になると「指示を受けながら行動する」ことができ始めます。(図5)

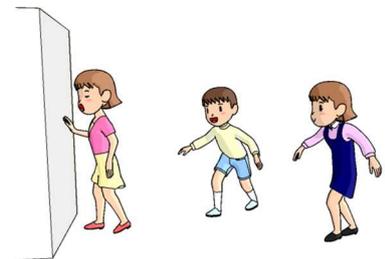


図5_「聞いて」調整する

③試行錯誤しながら学習を進めること

「見る」「聞く」が上手になると、自分の中で考えながら問題解決を図ることができます。少し回りくどい言い方をすると「外界から入ってきた情報(視覚や聴覚)を基にして、ゴールまでの道筋を立てて、上手くいかなかったときには少し戻ったり、また進めたりしながら、ゴールに近づくこと」ができ始めます。(図6)

④ことばを使って遊ぶこと

「ぶーん！トンネルをくぐります!!」とことばを先行させるミニカーを使った見立て遊びや、「次は〇〇しますよー」と人形に話しかけるお人形遊びなど、対象(ミニカー・人形)の行動より先にことばを出してリードする遊びができ始めます。

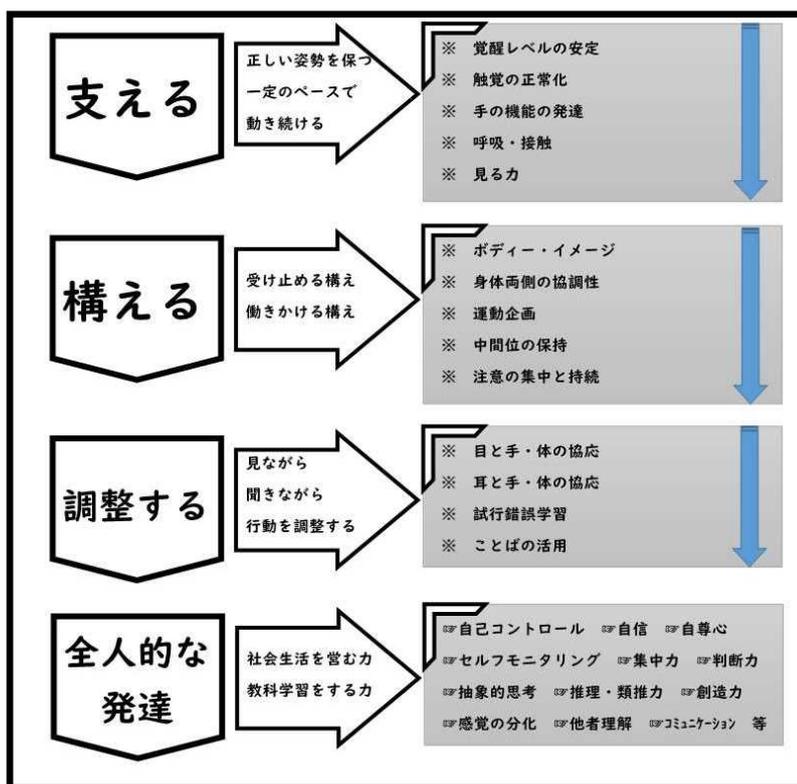


図6_試行錯誤する

「次に、身近な遊びで「調整する力」を育てられるものについて考えていきます。上記の①「見て⇒調整する」のならば、例えば、「虫取り」や「お手玉」、「バドミントン（「ブタミントン」や「ふわふわおさかなキャッチ」などの市販品も面白いですよ）」、自立活動のペグ刺しやプットインも難度調整すればココの段階でも使えますよね。②の「聞いて⇒調整する」のならば「フルーツバスケット」や「しりとり」も良いですし、逆に「椅子取りゲームが上手にできない子」は「構える」「支える」段階の課題を疑うと良いかもしれません。また、④の「見立て遊び」や「ごっこ遊び」は『ことばで対象のおもちゃや人形の行動をリードすること』を育てているということを意識できれば、先生自身の遊びへの介入の仕方がまた一步上手になりますよね。

まとめ 「支える」 ⇒ 「構える」 ⇒ 「調整する」

「さて、長らく紐解いてきた「支える」「構える」「調整する」シリーズはコレで終わりです（パチパチ）。知的障害特別支援教育の研修に関するお題は、とかく TEACCH に基づいた「視覚支援」や物理的構造化に代表される「学習環境の調整」、条件刺激（オペラダム）から人間の行動を紐解く「応用行動分析」（ABA/PBS/SWPBS）などに傾きがちですが、実はもっと根っこの「身体の発達」や「感覚の発達」を知っておくと、センサー（感覚上）なつまづきまで原因を遡って、それぞれに合った教育方法を選べば良いのだという根本的な理解にやっと行き着きます。そして何よりも自閉スペクトラム症のある児童だけではなく、全ての児童にとってこの身体や感覚の発達という根っこの理解は大切ですよ。また右図をもう一度見てみると分かる様に



「全人的な発達のレディネス（準備段階）」として、「支える」から「調整する」までが存在しています。「支える-調節する」は「土台づくり」でもあることも改めて解ります。

「また、ここから先の「自己調整学習」は「メタ認知」（自分自身がどのように物事を把握しているか自体を俯瞰して知ること）や「セルフモニタリング」（自分自身の認知過程や運動を監視して、その情報を受け止め、またそれを元に再度働きかけること）、内発的動機付けに自己を「調整する」力どう関わっているか？などを掘り下げていく分野になってくるので、とても興味深いですよ。

参考:香川県立高松特別支援学校「支援教育だより」<https://www.kagawa-edu.jp/takayo02/htdocs>